

優 秀 賞

# 基本的意識の積み重ね

(神奈川県) (株)スペースエクスプレス 法 元 彰

車の運転をしている人の中で、事故を起こそうとして起こしている人は、まずいないでしょう。それでも、事故はあとを断ちません。きっと誰でも免許を取得したばかりの頃は、自然と緊張感を持ってハンドルを握っていたはずです。それが、乗り慣れるにつれて、過信と油断に変わり、当たり前の方が疎かになった結果、事故を起こす要因に繋がっていくのだと思います。

具体的な原因は色々と考えられますが、自分は時間の管理と意識によって、安全運転の質が大きく変わってくると思います。日常生活の部分でいうと、基本的な事ですが、しっかりと睡眠時間を確保する事。居眠り運転をしないためというのも当然ながら、体調管理の側面から見ても、とても重要だと思います。規則正しい生活、食事、睡眠があつて、初めて万全な運転が出来るものです。風邪を引いたり、僅かな体調不良であっても、瞬間的な判断能力の低下は否めません。日々の自己管理の積み重ねが、運転をする上での根底にあると思います。

それと、仕事上と言える事は、時間に対する急ぐ、焦るという心理的なものです。何時までに間に合わせなければならない、少しでも早く帰りたい、そのように気持ちだけ先走ると、スピードの出し過ぎや確認がいい加減になる等、事故へ直結する大きな要因と言えるでしょう。交通状況や決められた納品時間や、自分でコントロール出来ないケースもあります。

しかし、どのような局面であっても、冷静かつ法令遵守でいつも通りの運転を心掛ける事です。その上で必要な事は、洞察力と分析力ではないでしょうか。洞察力のない運転は、360度全てに対する配慮がなく、目配り気配りのない自分本意な視点しか持っていない事です。無理な運転はせず、全ての車両、歩行者が、想定外の動きをするかもしれないという意識を持ち続けなければ、結果的に思いがけない事故は回避出来ません。

分析力がない運転は、漠然と理屈なくスピードを出して、無理な追い越しや車間距離を詰めたり、割り込みを繰り返せば、時間短縮になるといった安直な発想が生まれます。常に先の先まで見通す事が出来なければ、危険度が増すだけで何の意味もありません。

そこで、簡単な取り組みとしては、やはりエコドライブを意識する事でしょう。急加速をしない、急減速をしない、タイヤの摩耗を軽減する、当たり前の事ながらこの3点を念頭に置いていれば、自然と優しい運転へと変わっていくと思います。単独による接触や破損は、自分の運転技術を過信しない事と、他にも共通して言えますが、臆病な気持で目視の確認を行う事です。ミラーやモニターだけをあてにせず、何回か訪れている場所であっても、周囲の物の高さや出っ張りなどを自分の目でしっかり見るのが、何より大事だと思います。死角は必ずどこかにあるものです。

それと最後に、私はトラックを運転している時は、カーステレオは使いません。そして、窓を閉めきる事ありません。それは、周辺の音に対して少しでも早く反応するためです。一般の乗用車に比べてエンジン音が大きいので、緊急車両のサイレンや、すり抜けてくるバイクの音であったり、聴覚も先を見通す上で不可欠な要素だと思います。

カーステレオを使わないもうひとつの理由は、耳を傾けて何か聞くという行為自体、少なからず思考が散漫になり、適切な判断を鈍らせるからです。イヤホンで携帯電話の通話を認めている地域もありますが、手に持ってるか持っていないかの違いで、根本は同じだと思います。運転をしている時には、視覚と聴覚は他の事に影響されず、全ての神経を使う事が必須です。ハンドルを握って動かした瞬間、ある種凶器を操縦しているのと同じようなものです。

1秒たりとも気を抜く事は許されず、操作を少しでも誤れば簡単に人の命を奪ってしまいます。移動手段、輸送手段として、日々当たり前のように使っている車ですが、何十年と車に乗り続けている人であっても、気軽な心構えの日は1日も存在しません。常に自分の運転に向き合い、あらゆる事を想定した油断しない意識と、恐怖心を頭から離さない事です。

日々同じ意識と集中力を継続していくのは、決して簡単な事ではありません。しかし、事故を絶対に起こさない特別な魔法など決してないのです。誰もが当然と思うような、基本的意識の積み重ねこそが、安全運転、無事故無違反を成しうる根幹にあると私は考えます。